

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：ヨーロッパ中世史料入門 ILAS Seminar: Introduction to the Sources of European Medieval History		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, SATO HITOMI	
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks 1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester		Quota (Freshman) 10 (10)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods Wed.5
Classroom				Language of instruction	Japanese
Keyword	ヨーロッパ史およびアメリカ史関連 / 西洋史 / ヨーロッパ / 中世史 / 史料論				

(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

本セミナーは、ヨーロッパ中世史の理解を深めつつ、歴史学にとって不可欠の研究対象＝「史料」とは一体どんな性格を持ったものなのかを理解し、史料と向き合い、吟味検証する力を養うことを目的としています。

扱う素材は、中世フランスの哲学者・神学者であるアベラール（1079～1142年）とその恋人エロイズ（1101～1164）の往復書簡『アベラールとエロイズ』です。

一体、歴史を理解するとは、どういうことを意味しているのでしょうか。それは遠く離れた地域の、遠い過去を生きた人間が残した史料と、私たちはどのように向き合うことができるのか、という問でもあります。とりわけ、そこで問題になるのが、一見もっとも直接的に時空を超えて人間同士をつなぐかに見えて、その実「分かったつもり」の罟を張って私たちを待ち構える「心」という厄介な代物である場合には。

過去を知るためには、過去の証言である史料を現代人の常識から解き放ち、史料そのものの生成と変容の歴史的文脈の中に返して読まなければなりません。そのためには史料についての学問である史料論を知ることが必要です。

本セミナーはその入り口となることを目指しています。

[Course objectives]

- 1．ヨーロッパ中世史に関する基礎的な事項を理解する。
- 2．ヨーロッパ中世史料論に関する基礎的な知識を身に着ける。
- 3．ヨーロッパ中世史を学ぶ際に必要な文献や資料を検索し入手することができる。
- 4．ヨーロッパ中世の史料を読解するために必要な入門的知識を身に着け、史料に向き合う際にはどのような注意が必要であるかを理解する。
- 5．4を踏まえてヨーロッパ中世の史料を現代語訳で読解することができる。
- 6．先行研究における史料解釈を批判的に吟味検証することができる。

Continue to ILASセミナー：ヨーロッパ中世史料入門(2)

[Course schedule and contents]

以下の計画にそって授業を進めます。

第1回 オリエンテーション

報告分担 テキストの入手方法、参考文献、補助資料、レジュメの作成と報告の仕方についての説明

第2回 著者と主人公を知る：アベラールとエロイズ、人物と時代

第3回 史料を知る：『アベラールとエロイズ』の構造と歴史

第4回 『アベラールとエロイズ』第1書簡

第5回 『アベラールとエロイズ』第1書簡

第6回 『アベラールとエロイズ』第2書簡・第3書簡

第7回 『アベラールとエロイズ』第4書簡・第5書簡

第8回 『アベラールとエロイズ』第6書簡

第9回 『アベラールとエロイズ』第7書簡

第10回 『アベラールとエロイズ』第7書簡

第11回 『アベラールとエロイズ』第8書簡

第12回 『アベラールとエロイズ』第8書簡

第13回 『アベラールとエロイズ』第9～12書簡

第14回 『アベラールとエロイズ』解釈の歴史

第15回 フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

報告内容、授業への参加状況、授業内での発言などに基づき平常点で評価します。詳細は初回授業で説明します。

[Textbooks]

アベラール、エロイズ共著『アベラールとエロイズ：愛と修道の手紙』（岩波書店，1939年）
教科書の入手方法については第1回授業で説明します。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

報告担当者は担当部分を熟読し、テキスト以外の参考文献も適宜利用して理解を深め、報告の準備を行ってください。報告に際してはレジュメを作成すること。
また報告者以外も毎回しっかりテキストを読んで参加すること。

[Other information (office hours, etc.)]

オフィス・アワーは金曜4限です。メールによる連絡は以下のアドレスで受け付けています。

sato.hitomi.5k@kyoto-u.ac.jp

現代人の常識や肌感覚を自明視している限り、私たちはせいぜい100年間地上に存在して消えてゆく「たかが現代人」に過ぎません。

そんな限界を超え、時間と空間を超えて「人間」の懷に飛び込んでみたいと思うなら。ヨーロッパ中世史はあなたの血肉となり、血も肉も越えて力づけてくれるかもしれません。たかが現代、たかが自分を本気で脱ぎ捨ててみたい方、一緒に勉強できることを楽しみにしています。

Continue to ILASセミナー：ヨーロッパ中世史料入門(3)

[Essential courses]